令和5年度　地域と学校の連携・協働体制構築事業

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値
松山市	③学校と家庭の課題	家庭等における学習習慣の定着	本市の児童の学校以外での平日1日当たりの勉強時間は、全国水準は上回っているものの、減少傾向にある。	放課後等に小学校や公民館などを活用して、地域のボランティアの協力を得て、地域の実情に応じた回数（全教室累計で、2,700日程度、1教室平均で週1回以上）で、宿題の見守りを実施	学校以外で日常的に学習する児童が増える。	放課後子ども教室で、勉強する習慣がついたとする児童の割合（市教育委員会のアンケート調査）	43	%	50
松山市	③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	地域行事への参加に関する指標は、全国的な水準を上回っているが、自然の中で遊ぶことなどの経験については下回っている。	放課後や学校の休業日に、放課後子ども教室で地域のボランティアの参画を得て、地域での自然探検や農業体験、地域行事への参加などの多様な活動を、実施（全教室平均で、全活動日の1割となる270日程度）	自然体験や地域の行事への参加など多様な体験をした児童数が増える。	放課後子ども教室での普段できない体験が楽しいと感じた児童の割合（市教育委員会のアンケート調査）	50	%	55
松山市	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	コミュニティ・スクールのスムーズな導入に向けての研究と併せて、地域の方の協力を得て取り組む地域と学校と協働活動を、より組織的・継続的に実施するため、地域学校協働本部の整備などを行う必要がある。	自治体類似の仕組みで研究を行っている地区（令和4年度現在4地区）から、ゲストティーチャーの派遣や登下校の見守りなど、教員の負担軽減等に繋がる活動を組織的・継続的に実施するため、地域学校協働本部の整備を進める。	幅広い地域住民や団体がボランティアとして参画し、組織的・継続的に、地域と学校の協働活動を実施できる体制を整えた地域が増加する。	地域学校協働本部を整備し、地域と学校との協働活動を、組織的に実施した地区数	0	地区	4